

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0175700244, 医療法人 緑光会 野宮病院, 認知症高齢者グループホーム ふれ愛の家 (こぶしユニット), 岩見沢市5条東18丁目29番地, 平成24年2月10日, 平成24年5月9日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんはもとより、家族の方にとっても気軽に足を運んでもらえる「家庭」を目標とし、信頼関係を築き、利用者さんとの関わりを密にし「その人」を家族と一緒に支えて行けるようなホームにしたいと思っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL: http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700244&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 有限会社 ふるさとネットサービス, 札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階, 平成24年2月28日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内の住宅街に位置し、開設9年のホームです。精神科、内科等を有する病院に併設し、24時間緊急時に即応する医療連携、災害時における応援体制、建物構造上の安全や快適さなど、法人の手厚いバックアップが得られています。職員の育成と質の向上に向け、全職員の実践者研修受講の方針を持ち、研修に力を入れています。利用者の暮らしの継続に、利用者の力の発揮を支える自立支援が行われ、職員の対応力、観察力を高めながら、日常ケアはもとより看取りに近い支援に取り組んでいます。我が家としての家作りを推進し、利用者と共に建物内の家庭的な雰囲気を作り上げ、食に係わる工夫も充実しています。また家族を交えた多彩な行事や誕生会など、利用者を中心に家族との絆を大切に、共に支えあう信頼関係の構築に努力しています。夏祭りに地域住民を招待し、交流の取り組みにも着手しています。職員の他ユニットでの業務経験を通して、ホーム全体の連携が深まり、課題の共有や双方向の協議が成果に繋がっており、利用者の生活を機軸とした業務の改善や、工夫に意欲的に取り組んでいます。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-65) comparing facility performance against various criteria.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はつくられているが、実践には中々つながらず、夏祭りに近所の人達が数人来てくれた	運営理念はホーム内に掲示し、周知を図っています。会議やミーティングの機会を捉えて、理念の目指す方向性を想起し「我が家の暮らし」の追求に取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが少なく、近くのスーパーに買い物に行き、声を掛けたり、掛けられたりするくらい。	23年度は、ホーム主催の夏祭りに近隣住民を招待し、共に楽しむ機会作りに取り組んでいます。買い物時の交流や音楽ボランティア、保育園児の来訪も見られますが、地域住民との係わりが少ない状況にあります。	ホームでは地域密着型サービスの意義を認識し、地域との関係性の構築を目指しています。町内会への加入や、日常的な交流の機会作りの取り組みも検討していますので、その実現に期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H23.5/20、7/14、9/6、H24.1/30の4回行われている。今後委員の方も参加してもらい、食事会等考えている	利用者や家族、地域住民の代表、市や包括支援センター職員の協力を得て、23年度から運営推進会議の開催に取り組んでいます。ホームの運営や利用状況、職員研修や災害対策などを報告し、行事等活動状況に関して良好な評価を頂いています。	概ね2ヵ月毎の定期開催に向けて、地域の理解と協力を得るための積極的な働きかけや、議事録を全家族に公表し、意見の表出や参加を促し、多様な視点で双方向の協議が深まる会議運営の取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携は密に取れているとは言えないが、運営推進会議や、不定期ではあるが認定調査を取り寄せたりするようになった	運営推進会議を通してホームの実情の理解を求め、メールを活用した介護情報の交換や、認定審査調査などで連携しています。ホーム内で、保健所の専門講師による口腔ケアに関する研修会が予定され、サービスの質向上に向けた協働が徐々に進んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中は開放、夜間のみ19:00~6:30頃までは施錠あり。身体拘束についてはなし	マニュアル等を整備し、外部、伝達研修により玄関の施錠も含め、拘束をしないケアの実践に努めています。ケアに関して職員個々の気付きが表現し易いよう工夫し、利用者の視点に立ち戻る促しをしています。帰宅願望や不穏になった場合も、気持ちに添い、一緒に行動する事で自由と安心に繋がっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	H23.4/20施設内スタッフ研修にて勉強会を行った。また、ユニット内の意見箱を活用し、不適切ケアについてスタッフ間での声掛けをしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会はないが、ユニット内の入居者さん数名が生年後見人制度の対象となっている程度しか判らない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明については、施設長が入居時に家族へ説明している。また、疑問点や不安な事がないか面接時等を利用し、話し合いを持てるようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内の意見箱の設置あり。ケアプランのアセスメントの時等を利用し、本人の意見や要望等について聞き取り等している	職員は、家族と積極的にコミュニケーションを図る過程で、意向を伺っています。毎月の便りと手書きの手紙、行事案内や電話などで報告や対話の機会を多く持ち、信頼関係を大切にしています。健康面の心配や行事の日程調整など、即応できることは柔軟な対処で、家族の要望にできる限り応えるよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内では意見箱を作り、スタッフ間の意見や提案ができるようにしている。リーダーミーティング、日常の送り等で意見を発言できる場ができた	ユニット内では率直な意見交換が行われ、意見や提案、要望はリーダー会議を通して、管理者に伝える仕組みが確立しています。職員は他ユニットでの業務経験を通し、ホーム全体を視野に入れたチームケアが深まり、管理者は職員の意見を反映した運営に努め、就業環境の整備に向け、共に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外勤務についての理解はしてもらえるようになったが、休憩所やスタッフの人数については今後の課題として提案している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修への参加（施設）。ユニット内では意見箱を利用してケアについて話し合い、1ヶ月の目標を作り、達成に向けてケアにあたっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H23.6/7 17:30~20:00コミュニティプラザにて講師武田純子さんによる「認知症の人をケアすること」について各ユニットより数名参加していた		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時、本人、家族を交え、話し合いの場を持ち、ケアへ反映。また、日常生活の中でのコミュニケーションを通じ、信頼関係を築けるよう努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行事参加、面会時等のコミュニケーションやケアプラン説明時等、常に細かい事でも連絡を密にとり、信頼関係を築けることに努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要な支援に近づけるよう、プランの変更は常に行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者さんへの不適切ケアが無いか、ユニット内の意見箱を利用し、言動等に注意し合い、利用者さんのできる事を見極めてお互い支えるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの現状を蜜に家族に報告理解をしてもらい、一緒に支え合えるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの近所の人の来所等は時々見られる	近所の方々や詩吟の先生の来訪、年賀状交換の復活で昔からの友人や元職場の同僚の訪問など、今までの関係性の維持や継続の支援に努めています。また家族と共に馴染みの美容室に出掛けることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事をする席等の配慮や、さりげない声掛けなど、孤立しないよう努めている。また、食事の際は利用者同士が声掛け合えるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してしまうと、その後の関係については中々話をする機会も無くなってしまう			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話をヒントに、ケアプラン作成時に本人からの聞き取り等で把握し、本人の思いが優先できるよう努めている	意向や希望表出に配慮した問い掛けにより、意思確認が可能な利用者が多く、微細な変化や職員の気付きも個人日誌に記録し、家族からの情報も加え、利用者本位に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常の会話、ケアプラン作成時の話し合い等により、把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別にできる事、出来ない事を把握し、暮らしの役割をもって生活できるよう務めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成に当たり、本人、家族、スタッフ間で話し合いの場をつくり、現状にあったケアプランをつくるよう努めている	計画に連動して毎日モニタリングを行い、定期見直しの際にアセスメントやモニタリング評価を実施しています。作成時には利用者、家族と話し合う場を設け、利用者の意向を反映し、現状に即して利用者主体の暮らしを支援する介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌、ケアプラン、ユニット内の意見箱を利用			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に合わせて、ケアプランの変更により対応			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はまだまだできていない。昨年はい一度ミュージシャンの人が来所して入居者さんと一緒に歌を歌ったりした			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により野宮病院受診だったり、利用者さんの希望により以前からのかかりつけの病院受診はできている	受診は利用者、家族の希望に添い、かかりつけ医や併設病院を主治医としています。通院同行は家族もしくは職員が行い、受診結果については、ホーム、家族の双方で、心身の状態、治療法や薬の変更など詳細に情報を交換しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の送り、また特変時の報告、指示により看護師と連絡を取っている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	野宮病院に限り、情報交換等できるが、他病院とはあまりできていない			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の書類説明時「看取り」について説明。同意書等の作成に努めている	利用契約時に、重度化や看取りケアについて説明し、同意書を交わしています。状態変化については、密に医師の指示を受けながら、家族と方針を共有し、職員間の良好なチームワークで、看取りに近いケアを実施してきています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の応急手当等の実践力は身に着いていないが、急変がある時は直ぐに病棟へ連絡できるようになっている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している	23年度は、消防署の立会いの下、夜間を想定した訓練を実施しています。スプリンクラーなど防災設備を完備し、火災があった場合は、併設病院からの応援職員が駆けつける体制を確認しています。	災害時に、全職員が確実に避難誘導ができるよう、年2回の訓練実施の取り組みや、火災以外の災害についての対応の検討や備えなど、ホーム全体で協議し、地域との協力体制の構築も合わせて災害対策の強化を期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット内の意見箱を活用し、スタッフ間の不適切ケアが無くなるよう努めている	利用者の人格を尊重したケアを意識し、日々の接遇をふり返る機会を設けています。家庭的な親しさを大切にしながらも、馴れ合いにならないケアを心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けにより本人が選べるように自分で物事が決定できるよう努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先できるよう努めてはいるが、まだまだできていない			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お正月の着物等、行事に参加する時には少しのおしゃれを楽しむ			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんと一緒に準備をしたり、盛り付けをやってもらったり、片付けや米とき等できる事を行ってもらっている	食事は利用者の嗜好や希望を取り入れバランス良く、利用者が書いた今日の献立を掲示しています。食事作りを通して、利用者の得意とする場面を促し、食事を共にしています。収穫野菜を味わい、イベントや誕生会などの行事食も手作りで工夫を凝らしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間は、その人のペースに合わせて摂取したり、健康状態に合わせて粥食等の対応、また、水分も本人の好きな物に変えたり対応している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ずうがいや歯みがき等行ってもらい、清潔を保つよう努めている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日勤帯、夜間帯問わず、できる限りトイレ誘導にてオムツ使用を無くし、トイレでの排泄に努めている	全員の排泄状況を把握し、個別の生活リズムに添った誘導や声掛け介助、衛生用品の検討により、トイレでの排泄支援に取り組んでいます。入居後に失敗の減少や布パンツになる等、成果が見られる利用者もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まだまだ下剤に頼っていることが多いが、水分や果物、また、無理が掛からない程度に運動できるように取り組んでいる			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する、しないは利用者さんに決めてもらっている。また、曜日の変更はできるが、時間帯は決まってしまう	入浴日や時間など大枠の設定はありますが、入浴を楽しみにしている人など、それぞれの希望や思いを優先しながら、週2～3回の入浴を支援しています。安全面や身体状況に注意し、見守りや入浴用具の工夫をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝は無理に起こすこと無く、その時々に応じて対応している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化に応じて処方箋の確認や看護師相談等に対応している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で出来る事、タバコ、ワイン等の嗜好品、習字や歌などの楽しみ事ができるように努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ不足等もあり、中々外出できず、家族に頼ってしまう事が多い	個別の外出や外泊は家族の協力を頂いています。天候の良い時期は花壇や畑の手入れ、収穫も楽しむ機会を持っています。ホーム車両を有し、運転職員の配置で、地域のスーパーへの買い物や通院など、柔軟な対応が可能となっています。	ホームでは、更に日常的な散歩や、戸外に出て外気に触れたり、自然と親しむ機会作りの支援を検討していますので、今後の取り組みを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所有している利用者さんは少なく、売店を利用しても預かり金の方で買う事ができている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者全員ではないが、電話をかける事ができている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室の温度は一定化されており、温度差は感じられないが、浴室やトイレ等、車イス利用の方には不便などがある	広く開放的なリビングダイニングの片隅に、畳スペースや二人用の椅子などが配置され、利用者が思い思いの場で、落ち着いて寛げる環境になっています。手作り暖簾やちぎり絵の作品、行事の写真、季節の装飾品も程よく飾られ、利用者との会話も弾み、温かみのある空間作りに配慮されています。ホーム内は清潔に保たれ、毎週の除菌清掃などにより衛生管理も行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士、食卓テーブルに集まり、話をしたり、居室ではソファを持ち込んだりして独りになれる空間もできている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇の持ち込み、使い慣れた布団等	居室には、使い慣れた家具や愛着ある物品、家電製品などが自由に持ち込まれ、家族や友人とお茶を楽しみ、鉢物の手入れをするなど、それぞれの暮らしや習慣が継続できる設えになっています。家具の配置や箆笥の引き出しラベルの工夫、衣類や日用品が整理収納が可能な押入れなど、利用者が安心して過ごせる、我が家としての居室作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室が判るよう、大きな表示にした。日付が判るようカレンダー設置、居室前の名前等		